

社
SHA

楽
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.43

2015/06

社史は地域の歴史を知るのにも、たいへん役に立つ資料です。今回はその一例を、地元・川崎駅東口の百貨店・商業施設で紹介してみたいと思います。

○
今年五月末で、川崎駅東口の百貨店・さいか屋川崎店が開業してから59年間で閉店しました（現在は場所を変え規模を縮小して営業中）。

さいか屋の歴史を社史で調べてみましょう。さいか屋の社名は、和歌山県和歌山市にルーツがあります。戦国時代には鉄砲の雑賀（さいか）党として知られ、盟主の雑賀孫市は織田信長とも戦いました。



△5月末のさいか屋川崎店

この雑賀党の流れをくむ岡本傳兵衛が、明治初期に横須賀で雑賀屋呉服屋を開業して、1929年に商号を「さいか屋」とし、やがてデパートとして発展していきます。

川崎駅東口百貨店物語

川崎さいか屋（当時の正式名称）の開業は1956年です。将来性のある川崎への進出を考えていたさいか屋は、それまで川崎鶴見臨港バスが所有していた川崎駅東口のバス置場を移転する話を聞き、その跡地に進出することになりました。この交渉にあたっては、味の素株式会社の会長・鈴木三郎助氏（三代目）の斡旋もあつたそうです。

1955年4月30日に建設会社の担当者から川崎市役所で建設許可書を受け取りますが、その日の朝、さいか屋の社長は富士の霊峰の夢を見ていたことが後の語り草となったそうです。

『株式会社横須賀さいか屋社史』（1964年刊）および『株式会社さいか屋小史』（1992年刊）から要約しました。

（裏面につづく）

(表面から続く)

○ 戦前から川崎で呉服・衣料品を扱ってきた岡田屋は、1955年に大改築をして、鉄筋コンクリート4階建ての新店舗をオープンしました。(現在の川崎モアーズの建物とは異なります)。

○ その翌年には屋上に「こども動物園」がオープンしました。動物園では、オサル列車が走り、ペンギン、ライオン、クマ、チンパンジーなどの生後一年未満の動物ばかりが集められました。

○ 子象を屋上まで連れていくために係員が一日がかりで階段を登らせたり、クマがトラの尻尾を食いちぎって死なせたり、飛べないと思っていたクジャクが隣のビルまで滑空するなど、多くのエピソードがあったそうです。

○ この頃の岡田屋では、さまざまな企画を次々に開催し「アイデア商法の岡田屋」「岡田屋流 奇襲戦法」と呼ばれたそうです。「家電・交換販売」「40円商品券の開発」「ユカタでダットサンを当てよう」「1円玉回収運動」「入場料10円、お楽しみくじが毎日300枚」など、当時、企画された数多くのイベントが『岡田屋創業者と百年の歩み』

(1990年刊)に記されています。

○ 同書には、アイデアを生み出す人材開発法も取り上げられ、提案箱の設置、アイデア案出訓練グループの結成、社外からのアイデア募集などのほか「岡田屋のアイデアを生み出すための責任分担組織表」も掲載されています。

○ 川崎DICEは2003年にオープンしました。川崎DICEの誕生までを記した『川崎駅北口地区第3西街区再開発事業史』(2004年刊)によると、DICEの名前には4つのコンセプトがあるそうです。「多面的な魅力をもつ四角いビル」「DICE・さいころ遊ぶ楽しさの象徴」「日本語の大好き(だいすき)を連想」「AZARE A、BE、CITTAに次ぐ新しい川崎名所、DICE」です。最後の項目を補足するとABCDの順という意味です。ちなみにAZARE Aは地下街、BEは現在のアトレ川崎、CITTAは映画館等の施設です。何となく語感が似ている川崎大師は関係がないようです。

(科学情報課・高田)

「社史ができるまで講演会」

当館では、社史編さんの過程などを担当された方に話していただく「社史ができるまで講演会」を催しています。とくに社史を作成される方にとって、他社のすぐれた社史編纂の経緯を聞くのは、たいへん参考になると好評です。講師の方のご都合を優先しているので不定期の開催です。なお、講師の立候補やご紹介も大歓迎です。

今回は7月30日に『医学書院の70年』を取り上げます。詳細は6月下旬頃、当館のホームページ等にて。社史フェア2015(6/24-27)の会場でも応募を受け付ける予定です。

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 科学情報課

210-0011 川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537 FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>